

# Tourism in troubled times

## *Responsibility, Resistance and Resurgence in the Asia Pacific*

困難の多い時代における観光：

アジア太平洋地域における責任、抵抗、再起

2018年12月12日に行われた毎年恒例の年末イベントで、ユネスコ世界遺産、京都清水寺住職が書道の筆を執り、災害や不幸な出来事を意味する「災」という漢字を書き記した。この漢字はその年における日本国内の感情、出来事を最もよく象徴するものが選ばれる。「災」は困難さが高まる時代において、緊急事態への備えの重要性を伝えるだけでなく、お互いに共有すべき責任があることを強調している。

アジア太平洋地域はより広い範囲で、困難の多い時代を迎えています。気候変動や汚染、資源枯渇などの環境問題が、経済発展に向けた見通しやイデオロギーと衝突し続けている一方、経済的不均衡、人権侵害や地政学的混乱などの社会・政治的問題が残存し、新たな形で表面化しつつあります。このような背景のもと、アジア太平洋地域での観光の急成長が進むにつれて、政府、民営産業では、観光の発展を通じて、貧困やジェンダー不平等、地方再生、災害復興や持続的な開発目標といった問題に立ち向かおうと努力を進めています。

CTS-Asia Pacific 2020 学会の道しるべとなる3つのテーマは、困難さが高まる時代に観光を行うことの多面的で逆説的な示唆を導くもので、観光学への批判的なアプローチを取る学者や実践者からの発表を歓迎します。単に「観光に批判的」であることよりも、クリティカルセオリーや逆説の分析に基礎を置き、産業及び社会实践としての観光に対する必要性や要望を評価します。実践者、旅行ライター、人類学や地理学、社会学、政治科学、文化や環境、女性に関する分野や観光学などの観光を中心とした学際的な領域からの研究者の参加を期待します。学会は「Responsibility 責任、Resistance 抵抗、Resurgence 再起」という3つのテーマで編成し、以下のようなトピックに関連する発表を募ります。

日程

2月17日	オープニング+レセプション	ロイネットホテル
18日	学会	和歌山大学
19日	学会	和歌山大学
20~21日	エクスカージョン 1) 高野山 (日帰り) 2) 熊野古道 (1泊2日)	和歌山県各地

## 基調講演者

**1 Tasim Jamal**, アメリカ テキサス A&M 大学教授 (Department of Recreation, Parks and Tourism Sciences)。専門分野：社会正義と観光、文化遺産、人権、植民主義による差別の解消、人権の回復などをテーマとする。主な著書 *The SAGE Handbook of Tourism Studies* (2009), *Justice and Ethics in Tourism* (2019, Routledge)

**2 Christine Yano** ハワイ大学教授(文化人類学)日系移民の文化、音楽の歴史などを専門とする。ハーバード大学客員教授(2014-15)。アジア学研究所長。主な著書に *Tears of Longing: Nostalgia and the Nation in Japanese Popular Song* (Harvard, 2002), *Crowning the Nice Girl; Gender, Ethnicity, and Culture in Hawaii's Cherry Blossom Festival* (Hawaii, 2006), *Airborne Dreams: "Nisei" Stewardesses and Pan American World Airways* (Duke, 2011), and *Pink Globalization: Hello Kitty and its Trek Across the Pacific* (Duke, 2013).

**3 Tony Wheeler** 若者層のバックパッキングを専門とする旅行案内出版社 Lonely Planet を 1972 年に創設、世界をトレッキングする。世界的にアドベンチャーツアー、バックパッキングの創始者と見なされている。主な著書に *On Travel* (2018); *Islands of Australia* (National Library of Australia, 2019). The Planet Wheeler Foundation として、50 件以上の途上国支援プロジェクトを行ってきている。

**4 山下晋司** (帝京平成大学教授、東京大学名誉教授、文化人類学)

**5 遠藤英樹** (立命館大学文学部教授、文化地理学)

**6 加藤久美** (和歌山大学観光学部、国際観光学研究センター)

\*添付資料 1

### 《Critical Tourism Studies – Asia Pacific設立の趣旨》

<http://www.criticaltourismstudies.com>

私たちはCritical Tourism Studiesの最新の支部として、Critical Tourism Studies Asia-Pacificの設立報告ができることをうれしく思います。Critical Tourism Studies-Asia Pacific (CTS-AP) は、教育・研究者、地域社会の人々、そして観光実務従事者のための、国際的、学際的なネットワークです。CTS-APは、人と人とのつながりを構築する機会、意見交換、共同研究、そして観光研究における現代的問題について批判的に取り組む議論を促進します。CTS-APは、観光には複数の利害関係者が存在することを認識しています。私たちは多様性やこうした利害関係者が持ち寄る異なる視点を受け入れます。私たちは、学術的批判の対象および世界で最も大きな産業の一つとして、観光への理解を広めるよう努めます。このようにして、私たちは観光研究の多数のテーマや問題と批判的に関わり、新たな議論を始めようとしています。

CTSは当初、2005年にIrena Atlejevic (Institute for Tourism Zagreb)、Candice Harris (AUT)、Nigel Morgan (University of Surrey) 、そしてAnnette Pritchard (Cardiff Metropolitan University)によって発足し、広範囲に及ぶ批判的観光研究者のネットワークを実現化してきました。CTSの取り組みに感銘を受け、私たちはこのネットワークを拡大し、前向きな社会変化に貢献するというその使命を支援することを楽しみにしています。批判的な関わりと創造的なコラボレーションを通じて、私たちはアジア太平洋地域やその地域を越えて、観光論や観光実践の問題に取り組む、新たな議論の場を作り出そうとしています。

### 《Critical Tourism Studies》

CTSは自らを、観光実践や研究、教育において、あるいはそれらを通じて、社会的な変化を作り出し、促進するというビジョンを共有する研究者のネットワークである、と紹介しています。CTSはこれまで、観光研究において批判的思考の学派を浸透させる試みや、教育機関で新しい意見・代替意見のための包括的な環境を提供することによって、こうしたことを成し遂げてきました。CTSは「批判的であること」の幅広い定義を採用することで、より広い政治的、経済的、文化的そして社会的な文脈に観光現象を位置づけ、観光の論理化に向けた「鮮度の高い」方法を見つけ出そうとしています。

CTS学会に関する重要事項は、開催地とイベントの外部リンクに記載しています。CTSは、次の方法によって学会の利益を最大化することを目的としています。

- 地元企業とのみ協働すること
- 可能な限り開催地の資源を活用すること
- 地元の慈善団体やNGOをイベント運営の能動的なパートナーにすることで支援すること
- 地元の慈善団体に利益を寄付すること
- 地元の学生に職業体験の機会を提供すること
- 地方からの参加に優遇レートを提供すること

## 《Critical Tourism Studies- Asia Pacific 大会開催に関する規約》

### Critical Tourism Studies- Asia Pacific 学会

- 1) 学会は隔年で開催される。
- 2) 学会は国際会議共同議長、国際会議組織委員、そして地域会議組織委員から成る組織委員会によって運営される。
- 3) 組織委員は4年間務め、2回の学会を担当する。
- 4) 新たな委員会メンバーは、その委員会が開催する2回目の学会で選出される。
- 5) 学会は学会を開催する大学で開かれ、その大学関係者が組織委員になる。
- 6) 次回学会開催者(大学)は学会時に推薦され、次の学会の1年前に発表される。
- 7) 開催大学は、登録やスポンサーの確保を含め、学会の運営に関わる全ての財務事項に責任を持つ。
- 8) 研究委員は、論文の選定、プログラム運営、プログラム及び議事録の発行に責任を持つ。

## *Responsibility* 責任

ドナ・ハラウェイの「責任－能力」という概念(2016)にインスピレーションを受けたこのテーマは観光と／を通じて／に対して変化する社会へ、集合的、かつ感情的に対応する能力の育成を探求します。いかに観光が責任と／や責任－能力という概念と関連、また困難さが高まる時代に反応する能力を育成する上で、観光はどのような役割を果たしうるのでしょうか？想定されるトピックは以下。

- ・ 倫理と責任
  - ・ 観光対象の倫理考察
  - ・ 多様性と公平性
  - ・ コミュニティと環境
  - ・ 世代間の公正
  - ・ 観光と SDGs
  - ・ ジェンダーと観光
  - ・ 動物倫理
  - ・ 配慮の倫理(愛、親切、忍耐の変化可能性)
  - ・ 気候変動
  - ・ The Anthropocene 人間世
  - ・ 逆成長
  - ・ ボランティアツーリズム
- アクティビズムと政策
- ・ 先住民（在来）調査方法
  - ・ 組織化と影響

## *Resistance* 抵抗

観光産業が間違った方向に進んだ場合、どのように個人やコミュニティや団体がそのような強大で世界的な産業に対して、抵抗する力を持つ／持ちうるのでしょうか？ここでは、観光そのものが一種の抵抗活動となる方法を探ります。想定されるトピックは以下。

- ・ ポリティカルエコロジー
- ・ 観光政策
- ・ 脱植民地化
- ・ ポストコロニアル観光学
- ・ 抵抗の小規模活動
- ・ 観光と(相互文化の、非人間との、生態学的な)コミュニケーション

- ・ 社会的正義
  - ・ 観光労働者
  - ・ 多国籍ネットワーク
  - ・ 創造的抵抗
  - ・ オーバーツーリズム
  - ・ LGTB 研究

## Resurgence 再起

再起は災害、衝突や荒廃のさなかに、意味ある生活、コミュニティや人間と非人間の間を再構築する上で、観光の潜在的な役割を探求します。想定されるトピックは以下。

- ・ 観光と環境的正義
- ・ 観光における多様な生態集合
- ・ 先住民（在来）権利
- ・ 先住民（在来）知識
- ・ 地域再生・活性化
- ・ 持続可能性と観光
- ・ 汚染された地での観光とレジャー
- ・ 観光とリスク
- ・ レジリエンス
- ・ 災害後の観光
- ・ 海洋生態系における観光

### 日程

2019年 8月 1日	アブストラクト提出締め切り(250–300wds)
2019年 9月 16日	アブストラクトの受諾通知
2019年 10月 15日	アーリー・バード（早割登録）締め切り
2019年 11月 30日	発表者の最終登録締め切り

登録料	一般	学生
早期登録(2019年 10月 15日)	35000円	25000円
通常登録(2019年 11月 30日)	45000円	30000円

(\*\*本学学生～ボランティアスタッフとして参加する場合免除)

登録料には次のものが含まれます。

- ・ 全セッションへの参加と学会資料
- ・ オープニングレセプション(17日夜)
- ・ 昼食とコーヒー休憩（18, 19日）
- ・ 市街中心地と和歌山大学間の移動

学会費、プログラム、お薦めの宿泊施設、学会旅行オプション及び登録様式に関する詳しいご質問は、次のウェブサイトをご覧ください。(<https://www.criticaltourismstudies.com>)

実行委員会 (和歌山大学)

Joseph Cheer* (International Committee)	<u>院生</u>
Adam Doering* (International Committee)	築田香織
大浦由美	ミナ・カマール
吉田道	岡田美奈子
永井隼人	瀬戸陽子
木川剛志	Le Ngoc
佐野楓	
加藤久美*(International Committee)	
Nicolas Prozano	
神田孝治	